

第1回 教育に関する事務の点検・評価委員会

日時：令和元年12月18日（水）午後1時～

場所：豊島区庁舎8階 教育委員会室

【次第】

- 1 開 会
- 2 委員自己紹介
- 3 事務局紹介
- 4 委嘱状交付
- 5 教育長挨拶
- 6 委員長選出
- 7 議 事
 - (1) 教育に関する事務の点検・評価の実施について
 - (2) 平成30年度評価実施事業 取り組み状況報告
 - (3) 評価対象事業のヒアリング及び質疑応答
 - ① ICTを活用した学習活動の推進
- 8 閉 会

【資料】

1. 教育に関する事務の点検・評価の実施について…………… (資料1)
2. 平成30年度評価実施事業 取り組み状況報告 …………… (資料2-1)
3. 梟コレクション館の開設について …………… (資料2-2)
4. 事業分析シート (ICTを活用した学習活動の推進) …………… (資料3-1)
5. アンケート結果とICT活用の状況 …………… (資料3-2)
6. 教育に関する事務の点検・評価委員会設置要綱…………… (参考資料1)
7. 教育に関する事務の点検・評価実施要綱…………… (参考資料2)

教育に関する事務の点検・評価の実施について

1 根拠

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の前年度の執行状況等について毎年度点検及び評価する。

豊島区教育委員会が評価対象として指定した事務事業の執行と施策に関連する学校の取り組みの状況とを合わせて、施策の推進に有効に機能しているか点検・評価する。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 委員会の設置目的

点検・評価の客観性、透明性、公正性を確保するとともに区民への説明責任を果たすために、教育に関する識見を有する外部委員による委員会を設置する。

3 評価方法及び評価の視点

豊島区教育委員会が指定する事業の効率性・有効性を点検・評価する。評価の視点は、以下のとおりとする。

- ① 施策を構成する各事業が効率的に執行されているか。
- ② 事業構成は施策の目的に照らし合わせて必要かつ十分であるか。
- ③ 事業内容は施策に対し有効に働いているか。

また、効率性・有効性の評価は以下の3段階とする。

- A 高い
- B 適正
- C 低い

4 評価票及び評価の指標

評価票は、事業分析シートを用いる。各事業の指標は、施策の目的に向けた進捗度や達成度を図り得るものを選定する。

5 令和元年度の委員会開催日程について

○ 委員会日程

| | 日 時 | 内 容 |
|-----|---------------------------|--|
| 第1回 | 令和元年12月18日 13:00～15:00 | <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度実施した点検対象事業の評価後取組の報告 ・対象事業の説明、質疑、審議 <ul style="list-style-type: none"> ① ICTを活用した学習活動の推進 |
| 第2回 | 令和2年1月15日 14:00～16:30 | <ul style="list-style-type: none"> ・対象事業の説明、質疑、審議 <ul style="list-style-type: none"> ① いじめの防止対策の推進 ② 小・中学校の移動教室について ③ 子どもスキップ事業 |
| 第3回 | 令和2年1月30日 13:30～16:30 | <ul style="list-style-type: none"> ・施設視察 <ul style="list-style-type: none"> ① 巣鴨北中学校 ・対象事業の説明、質疑、審議 <ul style="list-style-type: none"> ① 学校施設環境改善交付金対象事業 |
| 第4回 | 令和2年2月20日 10:00～12:00 | <ul style="list-style-type: none"> ・評価及び点検・評価報告書確認、今年度のまとめ |

事業分析シート(例)

参考資料

| | | |
|------|--|------|
| 施策名 | | |
| 事業名称 | | 担当課： |

| | |
|----|--|
| 目的 | |
| 内容 | |
| 手法 | |

(単位：千円)

| | 事業費 | | 特定財源 | | 一般財源 | |
|--------------|-----|---------------|------|---------------|------|------|
| 予算 (H29) | | | | | | |
| 決算 (H29) | | | | | | |
| 所要人員 (正規) | | 所要人員 (非常勤) | | 開始時期 | | 終了時期 |
| 根拠法令等 | | | | 法律による 義務付け | | 必要性 |

| | |
|-----|--|
| 指標 | |
| 達成度 | |
| 課題 | |

平成30年度評価実施事業 取り組み状況報告

内 容 平成30年度に実施した教育に関する事務の点検・評価における意見に対する現時点での取り組み状況について報告する。

1. 豊島ふくろう・みみずく資料館の活用
2. 児童・生徒の推移と隣接校選択制について
3. 学校開放事業について
4. 秋田県能代市との教育連携
5. 日本語初期指導事業（通訳派遣）
6. 学校施設環境改善交付金事業

豊島ふくろう・みみずく資料館の活用

| | | |
|------|-----|---|
| 意見 | 効率性 | <p>(1) 資料館の情報を外部に発信していくためには、教育委員会だけでは限界があると感じる。区長部局との連携、所管の見直しなどの検討をお願いしたい。</p> <p>(2) 東アジア文化都市事業、図書館、庁舎内の展示物等と合わせ、積極的な情報発信を進めていただきたい。</p> <p>(3) 設置場所が学校敷地内であること、また展示スペースが狭いことにより、見学者が制限されている。</p> |
| | 有効性 | <p>(1) 貴重な展示物等を散逸させないためにも有効といえる。</p> <p>(2) ふるさと学習の一環として授業で見学するなど、有効に活用されている。</p> <p>(3) 南池袋小学校で実施している、地元すすきみみずくの物語を教材としたふるさと学習プログラムについて、他の小学校でも活用を進めていただきたい。</p> |
| 取組状況 | | <p>効率性（１）</p> <p>豊島ふくろう・みみずく資料館の情報を外部に発信していくために、現在は主に文化観光課と連携しながら普及に努めているが、今後はとしま未来文化財団などの協働も模索していく。</p> <p>効率性（２）（３）、有効性（１）</p> <p>椎名町駅前の民間ビルに「梟の樹を創る会」と協定して「梟コレクション館」にコレクションを提供しており、官民共同での普及事業を開始した。このことにより長崎地域にあたらしい回遊空間を生むことにつなげられればと考えている。</p> <p>有効性（２）</p> <p>ふるさと学習の一環としての活用は、南池袋小学校や近隣の小学校にとどまることなく、広く豊島区内の他の小学校の児童にも紹介できるように努めていく。</p> <p>有効性（３）</p> <p>すすきみみずくの物語を教材としたふるさと学習プログラムについては、南池袋小学校だけでなく富士見台小学校でも実施されるようになっている。今後はすすきみみずく保存会の協力を得ながら、より広く他校でも導入されるように普及活動を実施していく。</p> |

児童・生徒の推移と隣接校選択制について

| | |
|-------------------------------------|---|
| <p>効 率 性</p> | <p>(1) 隣接校選択制が導入後の7年間のデータと、児童・生徒数の推移、予測等を活用して効率よく事業を実施している。</p> <p>(2) 制度導入当初は、より良い教育を目指して各学校が切磋琢磨することを目的としていたが、児童・生徒数の増加、学校の受入れ枠の限界などの問題が顕著になり、その目的が変化してきている。</p> <p>(3) 適正人数、教室の確保など、安定した学校運営のために選択制の仕組みを変えていくことは時代の流れとも言える。</p> |
| <p>意 見</p> <p>有 効 性</p> | <p>(1) 教育内容・活動をより充実させていくためには、学務課、指導課で連携を進める必要がある。</p> <p>(2) 現在の事業形態では、全てがうまく機能しているとは言い難く、各学校の児童・生徒数の違いなどの要因等も含めて、隣接校選択制の運用改善に向けた取り組みをさらに進めていく必要がある。</p> <p>(3) 隣接する学校において学校行事の開催日が重ならないようにするなど、兄弟で別の学校になってしまうケース等に配慮が必要である。</p> <p>(4) どの学校であっても子供・保護者が満足できる学習環境の整備が必要である。</p> <p>(5) 事業を有効に推進するためにも、区内全域で児童・生徒数が増加傾向にあり、教室数の不足など施設面での問題が生じることについて周知を行っていただきたい。</p> |
| <p>取 組 状 況</p> | <p>毎年、学校ごとに隣接校選択制による出入や転出入の傾向を過去のデータより予測し、受け入れ枠の設定等に活用し、効率よく事業を実施している。</p> <p>しかし近年、就学年齢の人口が増加傾向にあり、施設上教室の確保が難しい学校が増えているため、学校施設課、放課後対策課、各学校と連携をした上で受け入れ枠を設定し、保護者への案内を作成している。一方で、教室数に余裕のある学校も存在しており、隣接校選択制の受け入れ枠を拡大することにより、学校間の児童・生徒数のバランス調整を行った。安定した学校運営のためにはやむを得ない対応であると考え、来年度以降も必要に応じて実施を検討する。</p> <p>また、兄弟で別の学校になってしまう場合、学校行事や PTA への従事等、保護者の負担が大きいと考えており、隣接校選択制で希望が通らなかった場合、指定校変更制度において可能な限りの配慮を行っている。</p> <p>年々受け入れ枠を制限する学校が増えているが、入学前に隣接校選択制のお知らせが届くまで実情を知らない保護者が多いため、豊島区ホームページで毎年の受け入れ枠を公開しているが、さらに周知を図る必要がある。</p> |

| 学校開放事業について | | |
|------------|--|--|
| 意見 | 効率性 | <p>(1) 利用者数も多く、改築・改修など様々な問題に対しても、先を見越して事業が滞らないような工夫をしている。</p> <p>(2) 開放管理員の長時間勤務、校庭開放時の見守り管理体制については引き続きの検討が必要である。</p> |
| | 有効性 | <p>(1) 平成31年度に全小・中学校において実施する体育館の冷暖房整備により、夏季期間に窓を開けて利用することによる騒音苦情も解消され、登録団体にとっても環境改善になることで一層の利用促進につながる事が期待される。</p> <p>(2) 地域コミュニティの形成といった面からも有効な事業といえる。</p> |
| 取組状況 | <p>地域コミュニティの形成と発展のため、学校教育に支障のない範囲で、区立小・中学校の校庭、体育館、武道場、教室を児童・生徒の安全な遊び場として、また区民等のスポーツ活動や生涯学習の場として活用した。平成30年度、児童・生徒の遊び場としての『個人開放』の利用者数は65,502人。団体開放利用者数について、『校庭』は83,190人、『体育館』は169,163人、『教室』は16,914人、『武道場』は2,835人。結果、個人開放および団体開放の利用者数の合計は337,604人だった。また、年度途中で学校の改築・改修工事等が実施されても、滞りなく学校施設を利用できるよう、学校施設課と連携し次年度登録校で改修工事等が予定されている場合等には団体登録更新時に情報提供する等、団体の年次計画が立てやすくなるよう情報周知の改善をした。</p> <p>安全管理面で大きな取り組みとしては、「熱中症計」の活用がある。これは、夏場の個人開放(校庭)実施の際に『熱中症対策』のため、各学校に熱中症計を設置し「熱中症計のメーターが『嚴重警戒』となった段階で個人開放(校庭)を中止する」という取り組みを、全校(学校開放・子どもスキップ・放課後子ども教室)統一のルールで運用したものである。この結果、平成30年度の個人開放(校庭)利用中の熱中症の発症件数は0件だった。このことは「子どもたちにとって安全・安心な遊び場の確保」という観点から一定の成果があったといえる。また、今年度豊島区立全小・中学校の体育館に冷暖房が設置されたため、熱中症計が『嚴重警戒』となっても、子どもスキップ等では校庭に代わる夏場の安全・安心な遊び場として、今後は空調の効いた体育館を活用することが期待できる。</p> <p>その他の管理体制についても、校庭の見守りを担う重要な存在である「学校開放協力員」については応募のポスターチラシを作成し各施設に設置する等、安定した人員確保のため呼びかけ強化に努めるとともに、学校開放管理員の長時間労働についても「会計年度任用職員制度」への移行に伴い、土日祝の勤務時間を午前・午後の交代制にする等、改善に向け引き続き検討を進めているところである。</p> <p>そして、各学校開放の課題等についての意見交換の場として、各校の学校開放運営委員長が一堂に会する『学校開放連合運営委員会』については年2回実施した。その他、各学校では年に1～6回の頻度で「学校開放運営委員会」を開催し、学校・地域の方々・登録団体等が一体となって運営する「お正月まつり」、「盆踊り大会」、「一輪車検定」等々、様々な開放行事が実施されたことで、地域交流・コミュニティの促進に繋がった。</p> | |

秋田県能代市との教育連携

| | | |
|----|-----|---|
| 意見 | 効率性 | <p>(1) 授業改善リーダーを派遣し、学んできたことを他の教員に普及させることで、授業改善と主体的、対話的で深い学びの実践に繋がっている。</p> <p>(2) 能代市との連携による生徒の交流と、能代市訪問の民泊、農業体験等は、地域の生活や文化を体感する場、自然体験活動の充実、正しい勤労観の醸成にもつながっている。</p> <p>(3) 事業開始当初に比べると教師力及び学力向上の目的の他に、互いの地域文化を伝え学びあうといった質的な内容の変化が見受けられるが、子供たちにとっては良い事業であると思われるので継続していただきたい。</p> |
| | 有効性 | <p>(1) 全国学力一斉調査の結果においても、児童・生徒の頑張り、能代市との連携により教師力が向上したことが表れている。</p> <p>(2) 能代市を訪問した生徒による体験報告会では、都心部と他の地域における環境の違い、農業体験における厳しさの報告の他、能代市を「第二のふるさと」、「また行きたい」といった報告がされる等、豊島ふるさと学習プログラムとして有効に機能している。</p> <p>(3) 区内では体験することが難しい農業体験等は、感受性を育み、感性を磨くといった点で有効性が高いといえる。</p> |

| | |
|------|--|
| 取組状況 | <p>豊島区と秋田県能代市の教育連携協定は、両区市の首長が後見人となり、平成 25 年 1 月に締結した。「教育」をテーマにした秋田県能代市との連携は、全国の先進例となっている。毎年、秋田県能代市の教員派遣団が豊島区を訪問する時期に併せ、「としま教育フォーラム」開催している。全国学力調査において、トップレベルを維持し続けている能代市と豊島区が子供の学力向上に向けた取り組みや教育活動を共有している。</p> <p>平成 30 年 8 月 20 日（月曜日）池袋本町小学校体育館において、秋田県能代市の教育委員会と区内教員とが参加して「としま教育フォーラム」を開催した。両区市の教育の充実を目指す「としま教育フォーラム」は 7 回目の開催となり、『人間としての生き方について考えを深める～考え、議論する「特別の教科 道徳」の授業創り～』と題し、豊島区立幼稚園、小・中学校の教員約 700 人が参加した。</p> <p>また、教員派遣交流として授業改善リーダー派遣を 6 月及び 11 月に小学校 2 名・中学校 1 名の計 3 名を 5 日間派遣し、あわせて教員派遣交流団として教育委員及び校長 3 名・副校長 1 名・主幹教諭等 5 名の計 9 名を 11 月に 2 日間派遣し、派遣交流団発表会及び授業改善リーダーによる公開授業を実施した。</p> <p>中学生の相互交流として、能代市中学生 8 月の 3 日間で第 2 学年生徒 14 名（1 校あたり 2 名）を受け入れ、区内施設名跡見学、生徒会交流、立教大学におけるイングリッシュキャンプ等に参加した。また豊島区中学生を 11 月の 3 日間で第 2 学年生徒 16 名（1 校あたり 2 名）を派遣し、民泊体験や能代工業高校バスケット部練習見学、火力発電所見学等に参加した。</p> |
|------|--|

日本語初期指導事業（通訳派遣）

| | | |
|------|-----|---|
| 意見 | 効率性 | <p>(1) 限られた人員の中、効率良く事業を展開するために努力している。社会的情勢からも今後一層の利用者増加が見込まれるため、人的な余裕を持たせられるように検討をいただきたい。</p> <p>(2) 通訳派遣において、兄弟を同じ時間で通訳を行うなどの調整をし、効率よく運営を行っている。</p> |
| | 有効性 | <p>(1) 言語なくして教育は成り立たないものであることから、絶対的に継続が必要な事業である。</p> <p>(2) 多種多様な文化・生活と言語への対応が増える中で、大変有効な事業である。</p> <p>(3) 全ての区立幼稚園、小・中学校に外国人の園児、児童・生徒が在籍し、国籍数も28か国に及ぶなどの状況から、引き続き多国籍化への対応や検討が必要である。</p> |
| 取組状況 | | <p>学校から申請のあった協力者派遣対象児童・生徒は、11月末日現在58人である。このうち8割弱が中国語対応で48人、その他は英語とネパール語対応が同数の5名となっている。昨年度の同時期は、48人だったので、前年度比10人増の申請を受けた。中国語が8割程度の傾向は変わらない。</p> <p>当センターの日本語初期指導員は、中国語・英語に2か国語に対応が可能のため、月最多86時間、1日平均5時間ほど学校現場で活動するとともに、対象言語の通訳協力者も学校の要請に応じて迅速に配置した。</p> <p>一人当たり最大34時間の通訳派遣と日本語指導教室への通級と併せて要請されることが多数で、教育センターの担当間で情報共有を図ることで、個々の実情に合った対応を図っている。</p> <p>さらに、保護者も日本語が理解できないケースが多数あり、学校からの通知類についても、当センターの日本語初期指導員が翻訳業務を担い、保護者と学校の円滑な意思疎通の支援を行っている。特に進路指導等が必要になる中学校においては、年数回の面談同席を行うなど特別に配慮が必要な事例もあり、柔軟な対応が求められた。</p> <p>なお、課題になっていたベトナム語の通訳協力者については、近々に登録予定であり、ベトナム語への要請にも応じることが可能となる見込みである。</p> <p>今後とも増加傾向にある多国籍化への対応は、学校現場の大きな課題になってくるため、迅速で安定的な通訳協力者派遣を進めていく。</p> |

学校施設環境改善交付金事業
学校トイレ緊急改善推進事業

| | | |
|------|--|--|
| 意見 | 効率性 | <p>(1) 掛かる予算が大きい中で、最大限の補助金を得られるよう調整し、改修・改築を進めている。予算額と決算額の差が大きくなってしまふ点は、説明責任を果たせるようお願いしたい。</p> <p>(2) 新築校においてはランチルームや家庭科室を一階に配置するなど、防災拠点としても機能強化が図られている。</p> <p>(3) 学校の敷地内に町会が利用できる集会スペースを設置するなど、地域開放や利用を前提に設計をしている。</p> |
| | 有効性 | <p>(1) 一階の来校者が主に使用するトイレには、オムツ交換用ベッド、ベビーキーパーなどが設置されるなど、小さな子供を連れた保護者にも配慮された改修がなされている。</p> <p>(2) 男性用トイレは個室を増やし、明るく入りやすいデザインにするなど利用しやすい整備がされている。</p> <p>(3) トイレ改修後の利用者アンケートでも好評を得るなど、効果が表れている。</p> <p>(4) 学校にとって、施設の改修は無くてはならないものであり、有効性は非常に高い。</p> |
| 取組状況 | <p>学校改築にあたっては、学校や保護者に加え、区民、地域の要望等を踏まえ、地域に開かれた施設になるよう設計等を行っている。</p> <p>また、区の財政負担軽減のため、最大限の補助金交付を受けられる努力をしつつ、改築・改修等の施設整備を進めている。これらは今後も引き続き実施していく。</p> <p>予算額は、工事の出来高に不足がないよう十分な額を想定して計上しているため、決算額との落差が大きくなることもある。これについては、引き続き説明責任を果たしていく。</p> <p>平成28年度より実施しているトイレ緊急改修では、ユニバーサルデザインへの対応も考慮しながら、平成30年度で校舎の系統トイレ改修が完了した。今後は、体育館や外部トイレ等の単独トイレを中心に、改修を進めていく。</p> | |

梟コレクション館の開設について

令和元年5月18日（土）教育委員会と森田晴久氏（梟の樹を創る会副会長、ビル所有者）の協定に基づき、豊島区所有のふくろう・みみずくコレクションを展示する「梟コレクション館」を開設した。

1 目的

豊島区所有のふくろう・みみずくコレクションを区民の方々が、気軽に鑑賞できる場所を設ける。また、マンガの聖地としまミュージアム開設後には、回遊ルートの一部として地域活性化に寄与する。

2 所在地

豊島区目白五丁目31番6号 アウルレジデンス目白地下1階展示室（約50坪）
（地図：裏面参照）

3 開館日時

毎週土・日曜日 午後1時から4時

4 展示内容

松浦千誉コレクション・飯野徹雄コレクション・斎藤みね子コレクションの中からこれまで展示できなかった比較的大型のものを約70点選んで展示

5 運営、管理について

（1）区

- ① 区はコレクションを設置するための展示台を制作し、ふくろう・みみずくコレクションを展示する
- ② 資料活用専門員（ふくろう・みみずく資料館配属）が開館時間中に巡回し、管理する。

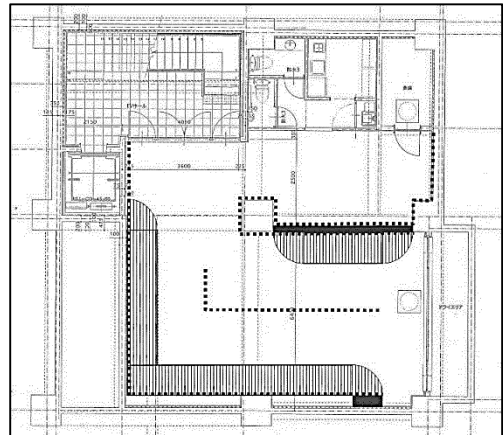
（2）ビル所有者（森田晴久氏・梟の樹を創る会副会長）

- ① アウルレジデンス地下1階の展示スペースに、展示台及びコレクションの設置場所を区に無償で貸与する。
- ② ビル所有者は設置場所以外を管理し、梟コレクション館の運営を行う。

6 梟コレクション館 コレクションと展示台



7 施設の位置と管理の範囲（下図の網かけ部分と点線部の壁面）



事業分析シート

| | | |
|------|---------------------------------|---------|
| 施策名 | 「確かな学力」の育成 | |
| 事業名称 | I C T機器整備（学習及び校務支援システム）の推進と活用状況 | 担当課：庶務課 |

| | |
|----|---|
| 目的 | <p>児童・生徒が利用する学習環境においては、I C Tを活用した学習活動を各教科で実施することにより、児童・生徒の情報活用能力の育成を図る。また、児童・生徒がコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、コンピュータで文字を入力するなどの基本的な操作や情報モラルを身に付けることを目的とする。</p> <p>教職員が利用する校務環境においては、成績処理や指導要録等を電子データ化するとともに校務支援システムを導入することにより、教員の校務負担軽減を図り、児童・生徒と向き合う時間を確保することを目的とする。</p> |
| 内容 | <p>学習環境では、タブレットパソコン、電子黒板等のI C T機器及び無線LAN環境を整備し、各教科の指導にあたり、I C T機器を活用した学習活動を充実するとともに、これらの情報手段に加え視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図る。</p> <p>校務環境では、校務支援システムを導入・運用し、教員に校務負担の軽減を図る。</p> <p>また、I C T支援員を活用し授業支援及び校務支援を行うことで、I C T機器や校務支援システムの一層の活用を図る。</p> |
| 手法 | <p>1. I C T機器等の整備</p> <p>(1) 学習環境</p> <p>① タブレットパソコン、電子黒板、実物投影機等の整備を行う。</p> <p>② I C T機器を有効に活用できるように、校内全域で無線LAN環境を整備する。</p> <p>(2) 校務環境</p> <p>① 成績処理、通知表作成、出席管理などの処理ができる校務支援システムを導入する。</p> <p>② 校務パソコンを整備する。</p> <p>2. I C T支援員の活用</p> <p>(1) 教材作成、I C T機器の操作支援、授業の立会いなどのサポートの他、校務業務の支援を行うため、I C T支援員を各校に派遣する。</p> <p>(2) 問合せに対応するためのヘルプデスクを設置し、電話での問い合わせ対応の他、必要に応じて学校を訪問して授業支援を行う。</p> <p>3. 教材等の活用</p> <p>(1) I C T機器やデジタル教材を使い、子供たち一人一人に合った学習を進める。</p> <p>(2) 各校で作成した教材等を共有し、効果的・効率的な授業を進める。問合せに対応するためのヘルプデスクを設置し、電話での問い合わせ対応の他、必要に応じて学校を訪問して授業支援を行う。</p> |

(単位：千円)

| 目的 | 事業費 | 特定財源 | 一般財源 |
|----------|---------|------|---------|
| 予算 (H30) | 335,528 | 0 | 335,528 |
| 決算 (H30) | 298,104 | 0 | 298,104 |

| | | | | | | | |
|--------------|---|---------------|---|-------------------|---|------|---|
| 所要人員 (正規) | 2. 4 | 所要人員 (非常勤) | 0 | 開始時期 | — | 終了時期 | — |
| 根拠法令 等 | 小・中学習指導要領（文部科学省） 平成 30 年度以降の学校における ICT 環境の整備方針（文部科学省） | | | 法律によ る義務付 け | 無 | 必要性 | 有 |

| | |
|-----|---|
| 指 標 | <p>「平成 30 年度以降の学校における ICT 環境の整備方針（文部科学省）」の記載事項</p> <p>1. 学習環境</p> <p>(1) 大型表示装置の普通教室及び特別教室への常設</p> <p>(2) 小学校及び特別支援学校の普通教室及び特別教室への実物投影機の常設</p> <p>(3) 充電保管庫の必要数の配備</p> <p>(4) 普通教室及び特別教室への無線 LAN の配備</p> <p>(5) 学習用コンピュータの 3 クラスに 1 クラス程度の配備</p> <p>2. 校務環境</p> <p>(1) 校務用コンピュータの教員 1 人 1 台環境の整備</p> <p>(2) 校務用サーバの整備</p> <p>(3) 統合型校務支援システムの整備</p> <p>3. その他</p> <p>(1) 「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」への対応</p> |
| 達成度 | <p>「平成 30 年度以降の学校における ICT 環境の整備方針（文部科学省）」の記載事項</p> <p>1. 学習環境</p> <p>(1)～(4) 平成 21 年度から平成 25 年度にかけて実施済み</p> <p>(5) 平成 30 年度に実施済み（それまでの約 5 人に 1 台から増設）</p> <p>2. 校務環境</p> <p>(1)～(3) 平成 26 年度から実施済み</p> <p>3. その他</p> <p>(1) 今年度中に対応予定</p> <p>「授業での活用状況」 資料 3-2 「アンケート結果と ICT 活用の状況」</p> |
| 課 題 | <p>国の「G I G A スクールネットワーク構想」や「クラウド・バイ・デフォルトの基本方針」等の施策により、インターネット環境の高速化、クラウド化がさらに進むことが予想される。さらに、現在は、学習環境と校務環境の分離を原則としている「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」の見直しも進められており、今後、新しい学校ネットワークのモデルが示されることが想定される。</p> <p>これらの状況を踏まえ、I C T 環境のさらなる整備とともに、I C T 機器等を活用した学習をさらに進める必要がある。この際、国の補助金等で購入した電子黒板は、10 年以上前のもので、交換部品が調達できない現状があるため、これら古い機器の置き換えについて、計画的に実施する必要がある。</p> <p>また、学習活動においては、プログラミング教育やデジタルコンテンツに関する教材の効果的な活用を進める必要がある。</p> |

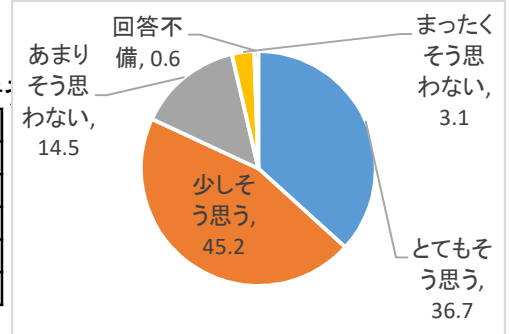
アンケート結果とICT活用の状況

平成31年度豊島区基礎的・基本的な内容の定着に関する調査

■小学6年生

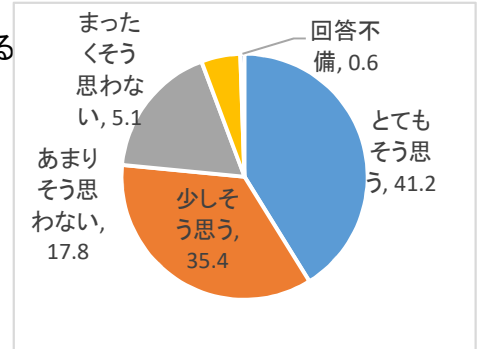
授業でよく、本や事典、インターネットなどを使って調べる活動を行

| | 男子 | 女子 | 合計 | % |
|------------|-----|-----|-----|------|
| とてもそう思う | 227 | 238 | 465 | 36.7 |
| 少しそう思う | 281 | 291 | 572 | 45.2 |
| あまりそう思わない | 106 | 77 | 183 | 14.5 |
| まったくそう思わない | 32 | 7 | 39 | 3.1 |
| 回答不備 | 4 | 3 | 7 | 0.6 |



電子黒板やタブレットを活用した授業は活用しない授業よりもわかる

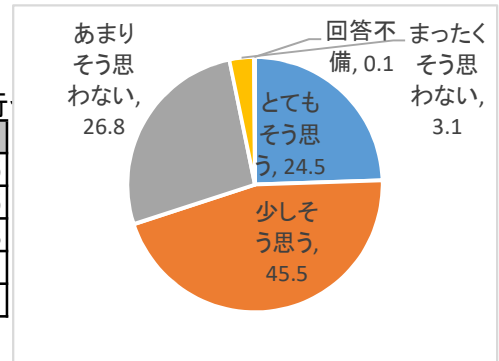
| | 男子 | 女子 | 合計 | % |
|------------|-----|-----|-----|------|
| とてもそう思う | 275 | 246 | 521 | 41.2 |
| 少しそう思う | 218 | 230 | 448 | 35.4 |
| あまりそう思わない | 114 | 111 | 225 | 17.8 |
| まったくそう思わない | 39 | 26 | 65 | 5.1 |
| 回答不備 | 4 | 3 | 7 | 0.6 |



■中学3年生

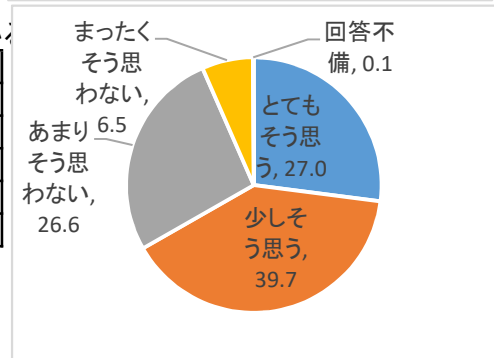
授業でよく、本や事典、インターネットなどを使って調べる活動を行

| | 男子 | 女子 | 合計 | % |
|------------|-----|-----|-----|------|
| とてもそう思う | 99 | 90 | 189 | 24.5 |
| 少しそう思う | 164 | 188 | 352 | 45.5 |
| あまりそう思わない | 114 | 93 | 207 | 26.8 |
| まったくそう思わない | 14 | 10 | 24 | 3.1 |
| 回答不備 | 1 | 0 | 1 | 0.1 |



電子黒板やタブレットを活用した授業は活用しない授業よりもわか

| | 男子 | 女子 | 合計 | % |
|------------|-----|-----|-----|------|
| とてもそう思う | 115 | 94 | 209 | 27.0 |
| 少しそう思う | 157 | 150 | 307 | 39.7 |
| あまりそう思わない | 89 | 117 | 206 | 26.6 |
| まったくそう思わない | 31 | 19 | 50 | 6.5 |
| 回答不備 | 0 | 1 | 1 | 0.1 |






ICT利活用 授業事例 2019

| | | | | | | | |
|-----------------|--------------------|-----|-------|------|---------|-------------|------|
| 学校名 | 豊島区立 椎名町小学校 | | | | ICTサポータ | 加藤 真奈 | |
| 区分 | 小学校 | 学年 | 1年 | 実施時期 | 5月 | 授業場所 | 普通教室 |
| 教科 | 算数/数学 | 単元名 | なんばんめ | | | 教科書 | 東京書籍 |
| 活用ソフト/ コンテンツ | 学習探検ナビ「じんとりゲーム1・2」 | | | | 時数 | 2時限目 / 2時限中 | |
| ICT機器 | タブレット、大型モニタ | | | | | | |

本時の内容

| | |
|------------|-------------------------------|
| 本時の めあて | 数を用いてもものの順序を正しく表すことができるようにする。 |
|------------|-------------------------------|

| 時間配分 | 授業の流れ | 学習形態 | 画面イメージ・写真 |
|---------------|---|------------|--|
| 授業準備 打合せ | <ul style="list-style-type: none"> ・なんばんめの単元で上・下・右・左から数える学習を終え、実践することで学習のめあてに到達する意図を確認。 ・2人1組でタブレットを使用するが、ログオンの復習も兼ね、1人1台のタブレットを用意し、ゲーム開始まで基本動作を確認する。 ・1人1台のタブレットを用意し、提示用タブレットを大型モニタに投影する。 | |  <p style="text-align: center;">学習探検ナビ「じんとりゲーム」</p> |
| 【導入】 -10分- | <p>めあて：「うえ・した・みぎ・ひだりから〇ばんめ」をつかってじんとりゲームをしよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①前時で学習したことを確認する。 ②学習探検ナビ「じんとりゲーム」の操作説明を行う。 ③2人1組にわかれ、どちらのタブレットを使用するか決め、「じんとりゲーム」をスタートする。 | 全体 |  <p style="text-align: center;">画面をタッチしながら操作</p> |
| 【展開】 -30分- | <p>④ペアで「じんとりゲーム1」に取り組む。2回終わったところで、「じんとりゲーム2」にすすむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">【算】順序立てる思考 Level1</p> <p style="text-align: center;">①操作→結果を順序だてて 考え、伝える。</p> </div> | ペアで 考える |  <p style="text-align: center;">2人1組で会話しながら</p> |
| 【まとめ】 -5分- | <p>⑤「じんとりゲーム！」をやってみた感想を発表する。</p> | 全体 共有 | |

授業の振り返り

☑ 学校様より画像掲載の許諾を受けております

先生の声

教材の色が分かりやすく、授業内で戸惑うことがなかった。算数の授業が苦手な子供も、自分たちで意欲的に取り組んでいる様子が見られた。子供達の意欲を引き出す良い教材だと思う。今後も、機器操作にさらに慣れたところで、使い方はわかりやすく、考える時間を長くとれるような教材を使っていきたい。子供達はとても楽しく学べた。もっとやりたかったという意見が多かった。

サポータの感想

先生との打合せがとても重要であり、前時からの流れがうまくつながったと感じた。2人で1台のタブレット使用することで、お互いの意思の確認や、わからないことを教えあう場面が多くみられた。上と下より、右と左からの理解がなかなか難しい子供がいたので、次回には注意点として今一度確認をしてから行う方がよいと思った。

ICT利活用 授業事例 2019

| | | | | | | | |
|-----------------|-----------------|-----|------|------|----------|---------------|------|
| 学校名 | 豊島区立 清和小学校 | | | | ICTサポーター | 白鳥 久美子 | |
| 区分 | 小学校 | 学年 | 2年 | 実施時期 | 6月 | 授業場所 | 普通教室 |
| 教科 | 国語 | 単元名 | スイミー | | | 教科書 | 光村図書 |
| 活用ソフト/ コンテンツ | SKYMENU、Viscuit | | | | 時数 | 10時限目 / 10時限中 | |
| ICT機器 | タブレット、大型モニタ | | | | | | |

本時の内容

| | |
|------------|----------------------|
| 本時の めあて | スイミーの世界をプログラミングで表現する |
|------------|----------------------|

| 時間配分 | 授業の流れ | 学習形態 | 画面イメージ・写真 |
|---------------|---|-----------|---|
| 授業準備 打合せ | <p>【ご提案】 「Viscuitを利用すると、自分で描いたスイミーを動かせます。単元に沿った内容でプログラミング学習が実施できます。」と先生にご提案したところ、「是非やりましょう！」と即決していただいた。</p> <p>【打合せ】 自作のViscuitの操作マニュアルを用い、先生に操作方法をご説明しながらご自身で操作していただき、授業の進行イメージなどを話した。</p> <p>【準備】 Viscuitにアクセスするためのショートカットを個人フォルダへ配布した。</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【ICT利活用Point】 コンピュータを使えば、自分が描いたものを動かせる。 コンピュータは命令によって動作し、 命令が正しくないとき正しく動作しない事を知るきっかけになる。</p> </div> | |  <p>Viscuitならスイミーを泳がせる</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【きりり★Point】 納得できるまで何回でもやり直し、目的を達成するために努力していた。Viscuitは、シンプルな操作でプログラミング的思考力を育める。</p> </div> |
| 【導入】 -10分- | <p>①「自分が描いたスイミーをプログラミングで動かそう」と課題提示。 ②新タブレットの起動方法と自分の番号でログインするまでの操作説明。</p> <p style="border: 1px solid blue; padding: 2px; display: inline-block;">めあて：スイミーがしたことをプログラミングを使ってあらわしてみよう。</p> | 全体 |  <p>③思い思いにスイミーを描画</p> |
| 【展開】 -30分- | <p>①SKYMENUを起動して「きょうざい」を開き、配布されているショートカットをダブルタップし「Viscuit」のWebサイトを開く。 ②背景色を選択し、基本画面が表示されたら、最初に先生がスイミーの描き方を説明する。 ③タッチペンを使い、子供達が各自で思い思いのスイミーを描く。 ④描いたスイミーを、海（再生エリア）に配置する。 ⑤先生が、スイミーを動かすためのプログラミングの仕方を説明する。 ⑥子供達が自分の描いたスイミーにプログラミングで動作を設定する。 ⑦海に置いたスイミーが予想とおりに動くかを確認する。 ⑧予想とおりに通りの動きにならなかった場合は、プログラミングの修正をするように先生が説明する。 ⑨もう一匹魚を描き、プログラミングしてスイミーと一緒に泳がす。 ⑩スイミーの世界になるよう、何匹も魚を海に置いて増やしていく。 ⑪SKYMENUで画面保存する。</p> | 個で 考える |  <p>⑥Viscuitでプログラミング</p> |
| 【まとめ】 -5分- | <p>スイミーを自分の目的通りに動かすためには、どのような命令をすれば良いか。また、思うような動きにならなかったら、その理由を考えて修正する。などと先生がプログラミング的思考を促す話をし、次回に活かせるようにと伝えた。</p> | 全体 |  <p>子供の作品を投影</p> |

■ 先生の声

- ・生徒がとても意欲的に学習に取り組んでいた。タブレット操作も上手に行えていたので、これからもっと活用できると実感した。
- ・Viscuitは2年生でも馴染みやすく、直感的に操作できるプログラミングツールだと思う。次はワンステップ上の課題を設け、プログラミングに対する理解を深めていきたい。
- ・全員が操作するとネットワークがつながり難くなる。改善して欲しい。

■ サポートの感想


- ・今期初めてのタブレット授業だったが上手に操作できていた。自宅で日常的に端末を利用している子供が多いように見受けられた。
- ・個性豊かなスイミーがたくさん見られた。色や線の太さを変えるなどの操作を自ら考えて行う子供が多く、プログラミング操作もすぐにコツを掴んでいた。子供の想像性と柔軟性に改めて感心させられた。
- ・自分の描いた絵が動く大変嬉しそうだった。「前に動かすにはどうすればよいか」「早く泳がせるにはどうすればよいか」などの質問も出て、「楽しみながらプログラミングを学ぶ」という本時のめあてが達成できたように思う。

ICT利活用 授業事例 2019

| | | | | | | | |
|-----------------|-------------|-----|-----------|------|---------|-------------|------|
| 学校名 | 豊島区立 駒込小学校 | | | | ICTサポート | 中村 陽介 | |
| 区分 | 小学校 | 学年 | 2年 | 実施時期 | 6月 | 授業場所 | 普通教室 |
| 教科 | 図工/美術 | 単元名 | ひかりのプレゼント | | | 教科書 | 日本文教 |
| 活用ソフト/ コンテンツ | SKYMENU/カメラ | | | | 時数 | 2時限目 / 2時限中 | |
| ICT機器 | タブレット | | | | | | |

本時の内容

| | |
|------------|---|
| 本時の めあて | <ul style="list-style-type: none"> ・材料を通して壁や床に映し出される形や色のおもしろさに気付く。 ・映し出された様子を、タブレットを使って写真を撮る。 |
|------------|---|

| 時間配分 | 授業の流れ | 学習形態 | 画面イメージ・写真 |
|---------------|--|------------|---|
| 授業準備 打合せ | 前時に、ペットボトルやたまごのカップなど、透明な空き容器にマジックなどで色や模様を付けている。本時では、作成した材料に光を通し、映し出される様子をタブレットを使って撮影する。 | |  |
| 【導入】 -20分- | <p>タブレットの電源の付け方を確認し、自分の番号でログインする。 写真を撮る時の注意を確認し、隣同士で写真を撮る練習をする。</p> <p style="text-align: center;">めあて：うつしだされた光のようすをタブレットでさつえいして楽しもう。</p> | 全体 | 前時で作成した材料 |
| 【展開】 -20分- | <p>2人1組になって、1人が材料を持ち光を通し、もう1人が映し出された様子をタブレットで撮影する。材料の角度を変えるなどして光の当て方を変え、映し出される様子の変化も楽しむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【AL★Point】 ペアで取り組むことで、もっとこんな風に写真を撮りたいと、子供達が工夫する様子が見られた。</p> </div> <p>1人が終わったら役割を交代し、同様に光で映し出された映像を撮影する。</p> | ペアで 考える |  |
| 【まとめ】 -5分- | <p>撮影した写真を見て、自分が作成した映像を楽しむ。また、作品を友達同士で見せ合い、面白さや楽しさを話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【比較する】 子供達がお互いの作品を見せ合い、良いところなどを話し合っていた。</p> </div> | 全体 共有 |  映し出された ひかりのプレゼントたち |

授業の振り返り

学校様より画像掲載の許諾を受けております

先生の声

- ・映し出された様子を子供達自身の力で記録に残すことができたため、子供達もよりいっそう光の様子を楽しむことができた。また、写真として残すことで、友達同士で写真を見せ合い話し合うことができ、活発な学習態度にもつながった。
- ・写真を撮ることで発生する肖像権についても触れることができ、道徳的にも良い機会となった。

サポートの感想

自分の好みの写真を撮るために、光の当て方を工夫したり、写真の撮り方を工夫したりと、子供達が色々考えて授業に取り組むことができたのではないかと感じた。また、写真に残すことで、自分の作品を見せ合ったり、鑑賞して楽しんだり、活発な雰囲気での授業になったのがとても良かったと感じた。

ICT利活用 授業事例 2019

| | | | | | | | |
|-----------------|-------------------------------------|-----|-----------|------|----------|-------------|----------|
| 学校名 | 豊島区立 池袋本町小学校 | | | | ICTサポーター | 原田 亮子 | |
| 区分 | 小学校 | 学年 | 3年 | 実施時期 | 7月 | 授業場所 | 学習情報センター |
| 教科 | 国語 | 単元名 | 本を使って調べよう | | | 教科書 | 光村図書 |
| 活用ソフト/ コンテンツ | PowerPoint/提示資料「本のならび方を知ろう・調べるための本」 | | | | 時数 | 1時限目 / 5時限中 | |
| ICT機器 | プロジェクタ、タブレット | | | | | | |

| 本時の内容

| | |
|------------|-----------------|
| 本時の めあて | 本を使って調べる方法を知ろう。 |
|------------|-----------------|

| 時間配分 | 授業の流れ | 学習形態 | 画面イメージ・写真 |
|---------------|---|-----------|---|
| 授業準備 打合せ | <ul style="list-style-type: none"> 教科書の内容を確認し、司書の先生、3年生の先生と授業内容を打合せた。 提示資料・クイズのワークシートを作成支援した。 | | |
| 【導入】 -20分- | <p>めあて：図書館の工夫を知り、本で調べる方法を知ろう。</p> <p>提示資料「本のならび方を知ろう」を見ながら、請求記号ラベル、本の分類法などを確認する。 その中で、調べるための本として図鑑、百科事典の使い方を学習する。</p> | 全体 |  <p style="text-align: center;">百科事典の使い方の説明</p> |
| 【展開】 -20分- | <ul style="list-style-type: none"> 班ごとに分かれ、内容の異なる問題が書いてあるワークシート（各シート2問ずつ）を配る。 <p>【問題の一部】</p> <p>【問】夏にさく花の代表、アサガオとヒマワリの違いは何でしょう。植物図鑑で調べましょう。*ヒント、植物の本は470-479の棚にあります。 答え[] どの本で調べましたか[]</p> <p>【問】『総合百科事典ポプラディア』で「パラリンピック」を調べてみましょう。何巻・何ページにのっていますか。答え[]</p> <p>【問】『エルマーのぼうけん』R・S・ガネット/策（93ガ）ななまるコーナーにあります。エルマーがどうぶつ島に行くとき、サンドイッチはなんごもちましたか。 答え[]</p> <ul style="list-style-type: none"> 図書館の見取り図を見たり、分類表を見ながら本を探し、内容を確認したら答えを書き、全員そろって司書の先生、または担任の先生に答えを伝える。 2問とも正解した班は次のワークシートをもらって問題に取り組む。制限時間内に同じ活動を繰り返す。 | 班で 考える |  <p style="text-align: center;">ワークシートを持って調べたい本を探す</p> |
| 【まとめ】 -5分- | <ul style="list-style-type: none"> 今日の学習活動の振り返りをする。 次時はタブレット（インターネット）を使った調べ方を学習することを確認する。 | 全体 | |

| 授業の振り返り

☑ 学校様より画像掲載の許諾を受けております

■ 先生・司書の先生の声

4月に図書室のオリエンテーションで本の場所について説明をするが、実際に調べたい本を分類に気を付けて探して見ると、子供達の意識が違うことがわかった。2学期になると、昔の道具や大豆など調べ学習が増えていくので、本やインターネットで調べるコツを習う機会としてよかったと思う。

■ サポータの感想

4月より、司書の先生と教科に絡めた学習情報センターの活用法について話し合いを重ね、1学期は調べ学習を始める3年生を対象に司書教諭の先生、3年生の先生方にご相談をしながら、授業支援の話を進めてきました。授業では子供達が協力し合い考えながら調べたい本を探しながら答えを見つけ出している姿が印象的でした。8種類のワークシートを用意したが、1時間では終わらず「もっとやりたい」という声があがり、夏休みの図書室が空いている期間に取り組むことができるようになった。1学期の終わりに開催することで、夏休みの図書室利用にもつながる結果になった。2学期は他学年との関わりに取り組んでいきたい。

| | | | | | | | |
|-----------------|----------------------------|-----|-----------------|------|----------|-----------|----------|
| 学校名 | 豊島区立 池袋本町小学校 | | | | ICTサポーター | 原田 亮子 | |
| 区分 | 小学校 | 学年 | 3年 | 実施時期 | 7月 | 授業場所 | 学習情報センター |
| 教科 | 総合的な学習の時間 | 単元名 | インターネットの検索方法を知る | | | 教科書 | |
| 活用ソフト/ コンテンツ | PowerPoint/提示資料「検さく名人になろう」 | | | | 時数 | 時限目 / 時限中 | |
| ICT機器 | プロジェクタ、タブレット | | | | | | |

本時の内容

| | |
|--------|------------------------------------|
| 本時のめあて | タブレットパソコンの扱い方とインターネット検索について理解を深める。 |
|--------|------------------------------------|

| 時間配分 | 授業の流れ | 学習形態 | 画面イメージ・写真 |
|---------------|--|-------|-----------|
| 授業準備 打合せ | ・提示資料・クイズのワークシートを作成支援した。 | | |
| 【導入】 -25分- | めあて：タブレットの使い方、インターネットの検さくの仕方を学ぼう ・タブレットの部位の説明と、起動方法を確認する。 ・提示資料「検さく名人」を見ながら、タブレットを使って調べ学習をする時のコンテンツ、操作方法を学習する。 | 全体 | |
| 【展開】 -15分- | ・提示資料のスライドに従い、ポプラディアネット/Yahoo!きっずの検索を練習する。 ・Yahoo!きっずでのカテゴリ検索/キーワード検索方法を確認する。調べたい内容を検索するときは、単語で区切って検索する。 ・「検索クイズ」に取り組む。検索する言葉に気を付けながら調べたい内容の答えを見つける。 【問題の一部】 【問】パンダのしっぽは何色でしょう。 どのような言葉で調べればいいでしょうか。 【答え】「パンダ しっぽ 色」で調べて、答えは「白」です。 | 個で考える | |
| 【まとめ】 -5分- | ・本とインターネットを調べる時の違いについて話し合う。 | 全体共有 | |

【きらり★Point】
検索する時は「文」で検索するのではなく、複数の「単語」に区切り、条件を絞っていくことを身につけていく。

授業の振り返り

☑ 学校様より画像掲載の許諾を受けております

先生の声

2学期から調べ学習をするが、インターネットを上手に使って検索をすることを工夫しながら学習することができて良い機会だった。単語に区切って入力する。ローマ字をまだ学習していないので、ソフトキーボードを使うなど、効率よく調べたい情報を見つけるコツを教えてもらった。2学期はリンク集なども併用しながら、本とインターネットを上手に使い分けて取り組んでいきたい。

■ サポーターの感想



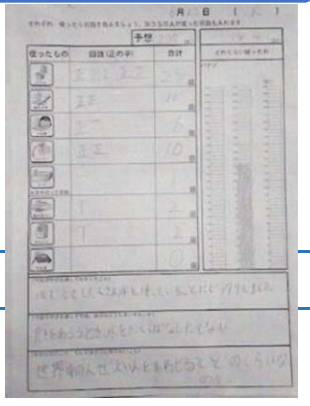
2年生のころからタブレットを活用した授業をしていたため、ログインなど基本操作には問題はなかったが、インターネットで自分が知りたい内容を探すという作業は初めてだったため、操作に戸惑う子供達も数人いた。検索するコツなどを確認しながらクイズに取り組んだが、答えを見つけた時は嬉しそうに手をあげる子供がいて、積極的に取り組む様子が見えた。振り返りでは、「検索するといろんな情報が出るので便利」「情報が多すぎるので、本の方がいい」など意見があった。本とインターネットのよさを見極めながら上手に調べ学習ができるよう、今後ご支援していきたいと思う。

ICT利活用 授業事例 2019

| | | | | | | | |
|-----------------|--------------------|-----|-------------|------|---------|---------------|------|
| 学校名 | 豊島区立 池袋第一小学校 | | | | ICTサポータ | 小林 徳子 | |
| 区分 | 小学校 | 学年 | 4年 | 実施時期 | 6月 | 授業場所 | 普通教室 |
| 教科 | 社会 | 単元名 | 命とくらしをささえる水 | | 教科書 | 日本文教出版 | |
| 活用ソフト/ コンテンツ | 学習探検ナビ「水の使い方を考えよう」 | | | | 時数 | 1 時限目 / 9 時限中 | |
| ICT機器 | タブレット・大型モニタ | | | | | | |

本時の内容

| | |
|------------|-------------------------------|
| 本時の めあて | ふだんの生活で、どれくらいの水を使っているのかしらべよう！ |
|------------|-------------------------------|

| 時間配分 | 授業の流れ | 学習形態 | 画面イメージ・写真 |
|---------------|--|-----------------------------|---|
| 授業準備 打合せ | <ul style="list-style-type: none"> 自分の家族が一日にどれくらいの水を使っているのか調べるためのワークシートを作成し、先生にお渡す。 子供達は、家で実際に使った水の量を調査し、ワークシートに記録する。 | 個で 取り組む |  <p>学習探検ナビ「水の使い方を考えよう」</p> |
| 【導入】 -5分- | <ul style="list-style-type: none"> 調査した結果から、一日の水の使用量はバケツ（10リットル→2リットルのペットボトル5本分）何杯分かを予想する。 今日のめあてを確認する。 | 全体 | |
| 【展開】 -35分- | <p style="text-align: center;">めあて：ふだんの生活でどれくらいの水を使っているのかしらべよう！</p> <p><操作></p> <ol style="list-style-type: none"> 学習探検ナビ「水の使い方を考えよう」を開き、操作方法を確認する。 10ℓのバケツをタップして、貯水槽に水をためる。 ワークシートを見ながら、トイレや歯磨きなど、実際に使った回数をタップしていく。 <p><ワークシート記入></p> <ol style="list-style-type: none"> 今日の学びを通して、わかったこと。 今日の学びを通して、自分はどうしていきたいか。 わからないこと、もしくはさらに知りたいこと。 | 個で 取り組む 個で 考える |  <p>ワークシート</p> |
| 【まとめ】 -5分- | <p>発表する。</p> | 全体 |  |

【AL★Point】

- ①事実の列挙
- ②具体例
- ③疑問を持つ

【子供の注目発言】
水は私たちの暮らしが豊かになるように助けてくれているんだなと思いました。

授業の振り返り

学校様より画像掲載の許諾を受けております

先生の声

自分が考えるよりもずっと大量の水を使っていることに驚きの声が上がっていた。項目をタップする度に「ジャー」という音と共に使った分の水の量が減っていく。デジタルコンテンツを活用することによって、子供達はとてもイメージが掴みやすく楽しんで取り組んでいた。ふだん何気なく使っている水の大切さと、友達との比較で水を使う量は生活の仕方によって変わること気づくことができた。




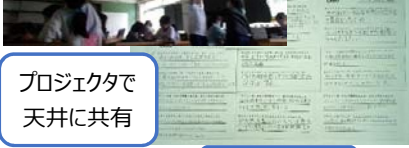
サポータの感想

わかったこととして、「こんなに使って水は無くならないのかな。大丈夫かな。」という意見から一歩進んで、「水は私たちの暮らしが豊かになるように助けてくれているんだなと思いました。」という意見も出ていた。また自分はどうしていきたいかについては、「歯磨きのときに水を出しっぱなしにしない。」などの具体例がたくさん上がっていた。「どうやって水は運ばれてくるのか？」など疑問点を持つことで、これからの学習に意欲を持って取り組むことができる。水の大切さについて深く考える良い時間となった。

ICT利活用 授業事例 2019

| | | | | | | | |
|-----------------|--------------|-----|----------------------|------|---------|---------------|-----|
| 学校名 | 豊島区立 仰高小学校 | | | | ICTサポータ | 猪股 陽子 | |
| 区分 | 小学校 | 学年 | 5年 | 実施時期 | 5月 | 授業場所 | 図工室 |
| 教科 | 図工/美術 | 単元名 | デジタルアート研究室 ビスケットLABO | | 教科書 | | |
| 活用ソフト/ コンテンツ | Viscuit | | | | 時数 | 1、2時限目 / 2時限中 | |
| ICT機器 | タブレット、プロジェクタ | | | | | | |

本時の内容

| | | | | | | |
|----------------|---|--|--|-----------|---|--|
| 本時の めあて | ビスケットで図工室をべつの世界に変えよう。 | | | | | |
| 時間配分 | 授業の流れ | | | 学習形態 | 画面イメージ・写真 | |
| 授業準備 打合せ | <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットおよびプロジェクタを図工室にセットする。 ・ビスケットランドのワークショップコード、を取得し黒板に記載しておく。 | | | |  | |
| 【導入】 -5分- | Viscuitランドを使って動きのある作品を作り、共有することを理解する。 | | | 全体 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">黒板の掲示</div> | |
| | めあて : ビスケットで図工室をべつの世界に変えよう。 | | | | | |
| 【展開】 -75分- | <ul style="list-style-type: none"> ・Viscuitランドのワークショップを通してVisucuitの操作や動かし方を練習する。 ・クラスのテーマを共有し、自分で動きのある作品を作る。 ・プロジェクタでViscuitランドを天井に投影し、友達の作品を鑑賞する。 | | | 全体 |  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">操作中の様子</div> | |
| | | | | 個で 考える |  | |
| 【まとめ】 -10分- | 振り返りシートを書く。 | | | 個人 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">プロジェクタで 天井に共有</div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">振り返りシート</div> | |

授業の振り返り

☑ 学校様より画像掲載の許諾を受けております

先生の声

共有した作品をプロジェクタで投影することで、友達に書いたものに興味を持ったり自分の作品を発展させることができる子どもが多かった。色数や濃淡の多さなど、Viscuitやコンピュータの良さを認識して描画材の代わりに道具として使いこなしつつ、普段使っている絵の具の良さにも気づいた子供もいた。

サポータの感想

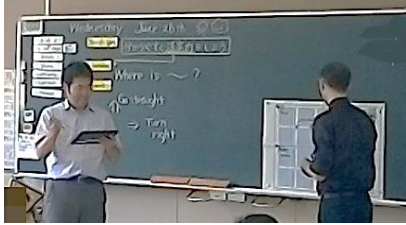
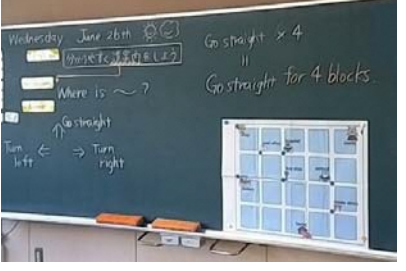

Viscuitの動きの中で「順次」の考え方を使って表現し、さらに友達と共有することで友達の考え方を知ることができるという良さを生かした内容だと感じた。高学年でもViscuitをうまく使うと、プログラミング的な思考を養うのに有効であると思う。

ICT利活用 授業事例 2019

| | | | | | | | |
|-----------------|--------------|-----|---------|------|---------|-------------|------------------------|
| 学校名 | 豊島区立 富士見台小学校 | | | | ICTサポータ | 飯盛 久美子 | |
| 区分 | 小学校 | 学年 | 6年 | 実施時期 | 6月 | 授業場所 | 普通教室 |
| 教科 | 外国語 | 単元名 | 道案内をしよう | | | 教科書 | We can2 (デジタルコンテンツ) |
| 活用ソフト/ コンテンツ | Scratch | | | | 時数 | 2時限目 / 3時限中 | |
| ICT機器 | 大型モニタ、タブレット | | | | | | |

本時の内容

| | |
|------------|--|
| 本時の めあて | 相手意識をもって、目的地への生き方を尋ねたり、わかりやすく道案内したりしようとする。 |
|------------|--|

| 時間配分 | 授業の流れ | 学習形態 | 画面イメージ・写真 |
|---------------|--|------------|---|
| 授業準備 打合せ | <ul style="list-style-type: none"> Scratchを活用した学習(コンテンツ：めいれいのじゅんぱん)で、道案内の表現に慣れ親しむようにした。 授業前にタブレットを起動し、Scratchのコンテンツを準備した。 | |  |
| 【導入】 -15分- | <ul style="list-style-type: none"> ALTが道案内のヒントクイズを行いながら名札を配布する。 道案内をする地図を確認する。 Activityのやり方を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">めあて：わかりやすく道案内をしよう</div> | 全体共有 |  |
| 【展開】 -25分- | <ul style="list-style-type: none"> ●ペア(A,B)で役割を決め、目的地までの行き方を尋ねる。 ①Bは、ワークシートに道順を記入し、3つの語(Turn left, Turn right, Go straight)を用いて、声に出して案内をする。 ②Aは、案内を聞きながら、Scratchで命令ブロックの操作をし、目的地にたどりつくか確認をする。 <div style="border: 2px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 【ICT利活用Point】 英語で正しく道案内ができたかその場で確認ができる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ●Activityの振り返り ・ブロックの数を発表する。 (できるだけ少ないブロックで道案内できたかどうか) ・ブロックの組み合わせ方を発表する。 (ブロックを有効活用できたかどうか) | ペアで 考える |  |
| 【まとめ】 -5分- | <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りからわかったことを確認する。 | 全体共有 | |

授業の振り返り

☑ 学校様より画像掲載の許諾を受けております

先生の声

・Scratchを活用することで、積極的に道案内を行うために必要な手順を考えることができた。細かいブロックの動き等は、再度確認が必要である。

サポータの感想



・ペアで行うことで、Scratchの操作だけに集中してしまうことがなく、有効的に活用することができていた。
・Scratchの命令ブロックの組み立てを何度も考えながら、より最適な道案内を考えることができていた。

ICT利活用 授業事例 2019

| | | | | | | | |
|-----------------|---------------|-----|------|------|---------|-------------|------|
| 学校名 | 豊島区立 千川中学校 | | | | ICTサポータ | 金城 さやか | |
| 区分 | 中学校 | 学年 | 2年 | 実施時期 | 6月 | 授業場所 | 普通教室 |
| 教科 | 道徳 | 単元名 | 松葉づえ | | | 教科書 | 光村図書 |
| 活用ソフト/ コンテンツ | ミライシード ムーブノート | | | | 時数 | 1時限目 / 1時限中 | |
| ICT機器 | タブレット、大型モニタ | | | | | | |

本時の内容

| | |
|------------|---------------------|
| 本時の めあて | 「思いやり」とはどういうものかを考える |
|------------|---------------------|

| 時間配分 | 授業の流れ | 学習形態 | 画面イメージ・写真 |
|---------------|--|------|--|
| 授業準備 打合せ | <ul style="list-style-type: none"> ・ミライシードへのログイン方法をPowerPointで作成する。 ・ムーブノートのワークシートを作成し、配信する。 ・教室の大型モニタにムーブノートの画面を投影する。 | |  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">授業の様子</div>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">みんなの広場に共有された意見</div> |
| 【導入】 -5分- | <ul style="list-style-type: none"> ・他者から思いやりを受けた経験をだしあう。 例：教科書を忘れたときに隣の人が見せてくれた。 学校を休んだときに、声をかけてくれた。 | | |
| | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">めあて：「思いやり」とは、どういうものだろう。</div> <ol style="list-style-type: none"> ①「松葉づえ」を朗読する。 ②配布した紙のワークシートに教材を読んで感じたことを記入する。 【発問】「誘ってくれてありがとう。」と言った大野君の感謝の言葉を「僕」が素直な気持ちで聞けなかったのはどうしてでしょうか。 【回答】かわいそうと思って誘った将棋で負けている「僕」に「ありがとう」と言われたのが不愉快だったから。 ③ムーブノートのワークシートを開き、「松葉づえ」の内容を踏まえ伊藤君の最後の言葉を考えながら、「本当の思いやり」について考えた意見を記入し「みんなの広場」に移動する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">中心発問：本当の思いやりとは何だろう。</div> <ol style="list-style-type: none"> ④自分の意見と周りの意見を比べ、一番共感できる意見に「拍手」をつける。 ⑤皆が一番共感した「思いやり」について考える。 | | |
| 【まとめ】 -5分- | 今日の授業の感想を記入する。 | | |

授業の振り返り

☑ 学校様より画像掲載の許諾を受けております

先生の声

タブレットを使用した授業が新鮮だったので、子供達の反応がとてもよかった。一度使い方を覚えてしまえばすぐに慣れて、積極的に意見が出せるようになった。皆の意見共有が簡単にできるので喜んでいて。気になった点としては、先生の画面と子供の画面に差がないので、大型モニタで投影してもあまり意味がないのではないかということだ。先生の画面の方は、自動的に全体が映るようになるとよい。

サポータの感想

ムーブノートを使用したことによって、クラス全員の意見を簡単に共有できた。また、無記名の意見共有だったため、様々な考えが出ていたのが印象的だった。共感できる意見に「拍手機能」を使って子供達から出たどの意見に関心があるのかを視覚的に見たり、また、先生が読んで関心のある意見について「花丸機能」を使用して皆に注目してもらいたいものを表示したり、集まった考えを更に深める様子が見られた。ムーブノートが道徳の授業に有効的であることを実感した。

教育に関する事務の点検・評価委員会設置要綱

平成20年6月10日
教育長決定

改正 平成22年6月23日

改正 平成27年4月 1日

(設置)

第1条 教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行うに際し、点検及び評価の客観性や透明性を確保するとともに、区民への説明責任を徹底するため、教育に関する事務の点検・評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 教育委員会の権限に属する事務の点検及び評価に関すること。
- (2) その他教育委員会が必要と認める事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員3人をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる者で構成し、教育委員会が委嘱する。

- (1) 学識経験者 1人
- (2) 学校経営経験者 1人
- (3) 区民 1人

3 委員会に委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

4 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。

5 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は就任した年度の末日までとする。ただし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第5条 委員会の会議は、委員長が召集する。

2 委員会は、必要があると認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、その説明又は意見を聴くことができる。

(会議の公開)

第6条 委員会の会議は公開とする。ただし、公開することが相当でないと委員会が認めるときは、この限りでない。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育部庶務課において行う。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成20年6月10日から施行する。

附 則

この要綱は、平成22年6月23日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年4月 1日から施行する。

教育に関する事務の点検・評価実施要綱

平成20年6月10日

教 育 長 決 定

改正 平成24年6月 4日

改正 平成25年6月27日

改正 平成27年4月 1日

(目的)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（平成19年法律第97号）の規定に基づき、教育委員会がその権限に属する事務の点検・評価及び公表について必要な事項を定めることにより、区民の視点に立った客観性や透明性の高い教育行政の推進を図ることを目的とする。

(定義)

第2条 この要綱において「点検・評価」とは、外部の知見を活用して教育委員会事務局が行う教育活動の執行状況を検証し、教育施策の推進に資することをいう。

(目的及び目標の設定)

第3条 課長は、毎年度ごとに課の組織の中期的方針に基づき、事務事業を取りまとめ、指標等を用いて当該方針に連なる目標を設定するものとする。

(点検・評価)

第4条 前条の規定により設定した目標の達成度及び施策の進捗状況について、点検・評価を行うものとする。

2 前項に規定する点検・評価の観点は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 効率性（実施方法とコストの視点）

(2) 有効性（設定された目標の達成度、施策実現や向上への寄与）

(点検・評価結果の活用)

第5条 点検・評価結果は教育委員会の基本方針にかかる計画の策定及び事務又は事業実施等において活用し、適切な措置を講ずるものとする。

(結果の公表)

第6条 点検・評価結果は、議会へ報告し、区民へ公表するものとする。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、教育部庶務課において行う。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成20年6月10日から施行する。

附 則

この要綱は、平成24年6月4日から施行する。

附 則

この要綱は、平成25年6月27日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。